

能登半島地震から1年

さらに広げよう支援の輪



能登町への災害義援金募金箱を設置しています

市では、能登町の住民を支援するため、指定募金箱を設置しています。寄付は所轄税務署で確定申告をすることで「寄附金控除等」の対象になります。申告に必要な領収書は窓口で発行しますので、募金箱にお金を入れる前に本庁3階企画政策課へお越しください。

設置場所

市役所本庁舎／須木庁舎／野尻庁舎／中央公民館



復旧・復興に向け歩み続ける 能登町 にもこれからも 寄り添い、支えよう

Photo1・2「能登半島地震」の発災直後の様子。道路、漁港、上下水道などのインフラや家屋などに大きな被害が発生 **3・4・5**「奥能登豪雨」被害の様子。地震の被害に追い打ちをかけるように道路や河川、農地などに被害が発生 **6**7月5日に復興を祈願し開催された日本遺産「あばれ祭」 **7**9月2日松波小学校仮校舎での始業式。地震で校舎が使用できず中学校校舎で授業を行っていましたが、2学期から中学校運動場に建設された仮校舎へ登校しています **8**「こばやし秋まつり」のパレードに参加した大森凡世能登町長（左から2人目）、金七祐太郎能登町議会議長（中央）、鍛冶鎌太郎能登町観光協会会長（右から1人目）と能登町職員 **9**秋まつり恒例の能登町のブースでは、特産品である日本酒の試飲や「いしりラーメン」の販売などが行われました

元日の能登町を襲った**大地震**
家屋やインフラに大きな被害

1月1日で、「令和6年能登半島地震」から1年が経過します。姉妹都市石川県能登町では46名の方が亡くなり（12月1日現在、うち災害関連死44名）、6千以上の住家が被害を受けました。また、道路や河川、橋梁などのインフラへの被害は深刻で、中でも上水道は約6千戸で断水。5月2日によろやく町内全域で解消しました。

奥能登地方を襲った豪雨で再び大きな被害が発生

地震による被害に追い打ちをかけたのが、9月に発生した「令和6年奥能登豪雨」。

9月21日には能登町に「大雨特別警報」が発表され、48時間雨量が最大371mmを観測する記録的豪雨となり、床上浸水13戸、床下浸水231戸の住家被害が発生したほか、一部集落が孤立。河川の

氾濫や土砂崩れなどにより、再び道路や河川などに大きな被害が出たほか、農地や農業用施設にも大きな被害が発生しました。

そうした状況の中でも、再び前を向き、復旧・復興へ向けて歩みはじめている能登町。家屋の公費解体は申請件数の3分の1を超える993件（12月11日時点）が完了し、次世代が希望を持てる持続可能なまちづくりを目指して「復興計画」の策定も進んでいます。

姉妹都市として能登町のために私たちにできること

11月23日の「こばやし秋まつり」では、能登町の大森凡世町長など関係者が来市しパレードに参加。恒例の能登町のブースも出店され、特産の日本酒の試飲や魚醬を使った「いしりラーメン」の販売などで人気を集めるなど、本市との交流も再開しています。

能登半島地震を経て、これまで以上に姉妹都市の絆は深まりました。これから先復興への長い道のりを歩く能登町のために私たちにできることは、その歩みに寄り添い続けることです。一日も早く能登町が復興を成し遂げ、人々から笑顔が戻ることを祈って。

能登町の皆さんが心から笑える日が一日も早く来ることを願って

昨年5月から能登町に派遣され、主に道路や河川、橋梁などの復旧業務に当たっています。

9月の「奥能登豪雨」では、地震の被害を受けつつもなんとか通行できていた場所が通れなくなったり、再び断水した地域もあるなど、大きな被害が発生しました。土砂崩れで通行止めになり、まだ調査できていない場所もあります。

能登町のベテラン職員の中には「これまでにこんなに雨が降ったことはない」と話す方もいるなど過去にない大雨に見舞われ、地震とあわせて二重のショックを受けて心が折れそうになっている人もいました。事業所の数

が足りず復旧工事を少しずつ発注している状況であり、復旧・復興にはまだまだ長い時間がかかります。引き続き支援を続けていくことが必要だと感じます。

現在、能登町では新しいまちづくりの方針を定める「復興計画」がまとまりつつあります。残りの派遣期間も、能登町の現状を知り少しでもまちの再建に貢献できるように、そして住民の皆さんが心から笑える日が一日も早く来るように、力を尽くしたいと思います。

また、この貴重な機会に多くのことを学び小林市へ持ち帰るように業務に当たりたいと思います。



小林市から派遣され能登町で業務に従事する
おやま 直人 主幹

能登半島地震・奥能登豪雨を経験し、小林市の皆さんに伝えたいこと

小林市の皆さまには、発災直後からさまざまなご支援をいただき、本当にありがとうございました。

経験を通してお伝えしたいことは、まず「公助には限界がある」ということです。大規模災害時は市役所職員や庁舎も被災します。最低3日間は市役所の支援がなくても生活できる備えをすることが大切です。

2つ目は「地域のつながりが命を救う」ということ。能登町では安否確認、避難誘導、支援物資の配布、見守り活動などを地域の人が自主的にやっていました。日頃から地域のつながりが強いところは災害にも強い。常に地域のつながりを大事にすることが重要です。

※ 12月13日に野尻町農村環境改善センターで開催された講演会より

3つ目は「水とトイレの確保」です。能登半島地震で一番困ったのは、水とトイレの問題でした。携帯トイレを準備したり、飲料水はローリングストックで使いながら備蓄するといったのではないかと思います。

4つ目は「セカンドベストを考える」ということです。例えば豪雨災害時の最善策は避難所に行くことですが、難しいときは2階に上ることも避難になり避難行動の壁が低くなります。そういうセカンドベストを考えることも非常に大切だと思います。

また、災害時は情報も非常に大切です。もしもに備え、小林市の公式LINEへの登録をお願いします。



能登町危機管理室
みちした まさとし 道下 政利 室長 6